

なぜ葬儀・法事を勤めるのか？ — 仏事としての意義 —

近年、社会の「個人化」の影響からか、葬儀の簡略化が進み、法事も縮小傾向が止まりません。新型コロナウイルス蔓延以降は、さらに拍車がかかっていると言えるでしょう。

このような状況に応じて、教化センターでは改めて「弔うとは何か?」、「何のために儀式を執行するのか?」を尋ねるべく、公開講座を催します。東京教区より海法龍氏をお招きし、首都圏の実情を踏まえながら真宗仏事の意味を考えてまいります。ぜひご参加ください。



講師:海法龍氏(東京教区 長願寺住職)

日時:3月27日(金) 午後3時30分～5時30分

会場:名古屋教務所1階 議事堂

(名古屋市中区橘2-8-55)

受講料:無料 ※教師陸補のための聴講証発行対象講座

対象:どなた様もご参加ください(申込不要)

【プロフィール】

海法龍 (かいほうりゅう)

1957 (昭和32) 年、熊本県天草市生まれ。大谷大学文学部真宗学科卒業。大谷専修学院卒業。現在、真宗大谷派長願寺住職 (神奈川県横須賀市)。前 真宗大谷派首都圏教化推進本部員。著書に、『誰のために葬儀を勤めるのか』『誰のためのお墓なのか』(以上、東本願寺真宗会館)、『苦悩の海をゆく』(東京真宗同朋の会)、『報恩の生活』『真実のよりどころ』(以上、東本願寺出版) など